

「学びの变革」指導事例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習
- ◇学年 中学部 重複障害学級 第3学年(2名)
- ◇単元名 「製品づくり」
- ◇目指す姿 『気付き、考える姿』
- ◇単元の目標
 - 職業生活に必要な基礎的な知識と技術をもとにした、実践的な態度を身に付ける。
 - 作業に必要な基本的な動作を活用する。
 - 作業に必要なやりとりする力を身に付け活用する。
- ◇本時の目標
 - ・ 活動の流れ(準備→製品作り→片付け)に沿って、時間内に小物入れを完成させることができる。(牛乳パックを使用した小物入れ)
 - ・ 準備や制作など作業の区切り目で報告することができる。
- ◇生徒の実態

本学級は知的障害と身体障害、聴覚障害を併せ有する重複障害の生徒1名、知的障害と身体障害を併せ有する生徒1名の計2名で編制している。2名とも、準備された教材を見たり、板書で大まかな内容を確認したりして、興味を持ちながら活動を進めることができおり、小物入れの制作手順はほぼ獲得できている。また、準備や片付けについても自主的に行う場面が見られるようになってきている。



＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価		
	A	B	全体
2 本時の作業工程や作業内容を知る。	○注目していなかったら、ホワイトボードを見るように促す。補足が必要な場合は文字や動作で伝える。(T2)	○集中ができていたらホワイトボードを見るように促す。(T2)	○ホワイトボードを指し示しながら活動の流れを端的に伝える。(T1)
6 製品作り	<p>終了時間内に小物入れを完成させることができる。 手伝ってほしい時は、視線を合わせタッピングや手話で正しく伝えることができる。</p> <p>○手伝ってほしい時どうすれば良いか具体的にモデルを示す。 ○時計で制作の終了時間を確認させる。 ☆手伝ってほしい時、正しく伝えることができたか。 ☆挙手により、制作の完了を伝えることができたか。</p>	<p>終了時間内に小物入れを完成させることができる。 教師に手伝ってほしい時は、ベルやジェスチャーで伝えることができる。</p> <p>○作業の手が止まったりして困った様子の時は、どうすれば良いか問いかけをする。 ○タイマーが鳴ったら、制作を終了することを伝える。 ☆手伝ってほしい時、明確に伝えることができたか。 ☆挙手と発声により、制作の完了を伝えることができたか。</p>	<p>○制作の終了時間を伝えておく。 ○上手にできているところはしっかり称賛する。(T1, T2) ○要求できたことはしっかり受け止めながら、支援はできるだけ最小限にする。</p>

ホワイトボードに作業工程の流れを示すと共に、本時の目標である報告するポイントをカードで表示する工夫を行い、生徒が活動目標を意識して作業を行うことができていました。

「製品作り」では、牛乳パックの内面及び底面に貼る飾り板を作るための支援カード(制作する飾り板をカードの上に実際に置くことができる)を使い、見通しを持たせる工夫をしていました。

ホワイトボードに、準備・作業の完了等の報告をするポイントを示していたことから、生徒は活動の区切りで確実に報告することができていた。また、教師が示したポイント以外でも、生徒から自発的に報告や援助依頼をする場面が見られた。援助を求める場面では、難しいと報告することができても、何が難しいのかを正しく報告する力にはなっていない。「正しく伝える力」として、何が難しく、何を援助して欲しいのか、伝える力を今後も意識して指導する必要がある。